

目 標

忌避剤による低コストで効果的なエゾシカ植栽木被害防止対策の確立

取組内容

結果

【全卵由来忌避剤とヒトデ由来忌避剤の効果検証】

①全卵粉末を主成分とした忌避剤の散布試験地（1区画12条植のうちエゾシカの痕跡が見られる植列1条を選定）と忌避剤効果を対比する忌避剤未散布地を設定、植栽列毎に時期、回数のパターンを変えて忌避剤を4回散布し、忌避剤散布量等調査及びエゾシカによるコンテナ苗食害と、コンテナ苗引き抜き被害調査を1カ月に2回程度実施した。また、エゾシカ出没数と食害発生状況の関係を把握するため、自動撮影カメラを試験地、対比地に設置し、時間毎の出没頭数の集計を行った。

今年度10月時点での忌避剤検証結果について取りまとめ、根室管内の振興局、自治体、森林組合の林務担当者が参加したねむろ森林づくり交流会において情報提供を行った。



忌避剤散布



自動撮影カメラ設置



ねむろ森林づくり交流会

②林業関係者の関心が高かったヒトデ由来の忌避剤の効果検証を実施することとし、令和5年11月植栽のカラマツコンテナ苗造林地にヒトデ由来の忌避剤散布試験地を設定、散布等を根室振興局森林室と共働で実施し、効果を調査中。

今年度が忌避剤散布検証調査の初年であるため、管内林務担当者へは月別のコンテナ苗の食害、引き抜き被害等の情報提供が主となったが、根室地域における全卵粉末忌避剤がエゾシカ被害対策の選択肢の一つとして認識してもらえる機会となった。

【調査結果からの考察】

- ①忌避剤散布は、草本類が繁茂する時期から食害がほぼ無くなることから、植栽直後及び新芽時期が効果的である。（忌避剤2回目(7月3日)以降検証試験地植栽木被害無）
- ②忌避剤散布後約2週間後の調査では食害等は無く、効果が見られたが、約4週間後の調査では食害が発生していたことから、それ以前に2回目の忌避剤の散布の有無を検討。

今年度の総括 次年度の予定

忌避剤を活用した造林木被害低減の検証は、エゾシカによる農林業被害が高水準で推移している根室地域の林務担当者等の関心が高いことから、次年度は、被害時期等今年度の検証結果を踏まえ、引き続き全卵粉末、ヒトデ由来忌避剤の効率的で経済的な散布方法等を検証し、その結果については、地域林業関係者を招集した勉強会を開催し、地域での普及・活用が図られるよう取り組む考え。